



OCFC NEWS

2003 年 4 月 1 日号

Vol. 14

大川子ども & 内科クリニック

OCFC 開設3周年

2003 年4月でOCFC は開設3周年を迎えました。カルテを作られた方は9,000 名に迫り、2002 年度の受診者数は約35,000 名となりました。この受診者数は都立病院で最も忙しいとされている墨東病院小児科受診者数と同等で、東邦大学小児科の3/4 です。全国の開業医の中でも患者数で上位7.5% 以内にはいるようです。(日本小児科医会調べ)多くの皆様にご利用いただき誠にありがとうございます。OCFC ではこれからも十分な説明と根拠に基づく医療(EBM evidence based medicine)を目指します。1月のインフルエンザ流行期には一部の方には大変長くお待ち頂き申し訳ありませんでした。待ち時間の短縮をはかるうえからも、これからは一層予約を中心に診療する予定ですので是非電話予約機をご利用下さい。また受付に電話されても、

診療後に次回の予約を直接取られてもいいと思います。しかし重症な患者さんを最優先する(トリアージ)医療は守りますので御協力下さい。これから9月までは患者さんが比較的少ない時期です。なるべくご納得頂ける説明をして医療を行なうつもりですが、言葉が足りないときは遠慮無くご質問下さい。OCFC では医師の直接の説明以外に、看護婦からパンフレットを用いた説明も行なっております。

第2・4水曜日のアレルギー担当大柴先生の外来日が変わります。土曜日午前となりますので、変更にご注意されて今までどおりご利用下さい。水曜日の先生も変わります。詳しいことは院内に掲示致します。

4月より7月までの休日診療の予定が決まりました。ご利用下さい。なお黄金週間の診療予定は決定次第お知らせします。

4 月	5 月	6 月	7 月
6 日、20 日	18 日	8 日、22 日	13 日、27 日

※いずれも午前9時より12時までです。

予防接種製剤の水銀含量0をめざして ～予防接種製剤を入れ替えます～

昨年のインフルエンザワクチンでは保存剤であるチメロサル(エチル水銀化合物)の含有量が一番少ない製剤を使用して大変好評でした。チメロサルは不活化ワクチン(3種混合、日本脳炎、インフルエンザ等)の多くで使用されていますが、半減期が1週間以内

と短いためそれによる副反応は報告されておりません。しかしより安全を求めて、OCFC では今後市販されているワクチンの中から水銀を含まないかあるいは一番少ない製剤を選んで使用する予定です。その為使用する製剤が変わる可能性があります。ご了承ください。

OCFC INFORMATION

猛威をふるうスギ花粉症

今年は昨年にも増してスギの花粉が大量に飛散しました。早い方では1月初旬から症状が現れた様ですが、多くの方は3月になって急激に症状が出現しました。OCFCで治療を受ける方は年々増加し、初年度173名、昨年236名、今年は約300名の方が来院されています。初年度から毎年治療をこの時期に受けられた方ではスギ花粉に対するIgE抗体の低下が見られ症状がほとんどなくなった方もいらっしゃいます。OCFCでは前年度の患者さんにお書書をお送りして治療開始時期をお知らせしました。1月中に治療を開始した方の症状発現は遅くまた軽いようです。花粉症予防薬の効果は2週間後からです。早めの治療が効果的のようです。花粉症の治療はお薬だけに頼らずになるべく花粉を避ける努力も必要です。帽子、メガネ、マスクの着用、掃除の仕方、布団の干し方などにも注意を払って下さい。なお具体的な花粉を避ける方法は患者さん質問箱を参照して下さい。

感染症 だより

インフルエンザ報告

猛威をふるったインフルエンザ～インフルエンザは二度訪れる～

予防接種について：今シーズンの予防接種は10月8日より開始致しました。2月22日に接種は終了し、延べ2,893名に施行致しました。副反応は21名、0.7%に発症しましたが重篤な副反応は認められませんでした。2名の方が注射した腕のしびれ感を訴えられましたが、数時間で回復されました。その他局所の腫脹(10名)あるいは38℃以上の発熱(6名)でした。発熱は1日で解熱、局所の腫脹も速やかに消退しております。他は腕の痛み、発疹です。卵アレルギーの方5人にプリックテストをして、陽性に出たお一人は接種を中止しましたが、他の4人の方は安全に接種できました。

インフルエンザの発症：今シーズンのインフルエンザはOCFCでは平成14年12月29日のインフルエンザA感染症を確認して以来、12月A型4名、1月A型168名、B型76名、2月A型40名、B型135名の423名でした。今年の特徴はA型が先行してB型も流行するパターンで、1月にA型、2月にB型に罹る、2度感染する方が8名いらっしゃいました。今年流行したのはA香港型ですが、海外ではAロシア型の患者さんも居ますので3月にA型がもう一度流行するかもしれません。A型にはシンメトリル、AとB型にはタミフル、リレンザを使用します。大流行のためにタミフル・リレンザが不足して一部の病院・医院ではB型のインフルエンザの治療ができなくなりましたが、OCFCでは投与期間を短くして患者さん全員に治療薬を投与することができました。解熱するには2日間の投与で充分なのですが、治療薬不足を良く理解してください、多くの患者さんに分け与えるために御協力頂いた皆様に感謝申し上げます。今年の特徴は治療後解熱して4日後に再び発熱する症例が2割ぐらいありましたが、再発熱は1～2日で解熱しています。インフルエンザに関連する熱性痙攣は4名に見られました。お母様が心配されたお一人は荏原病院に搬送しましたが、その方を含め4人も元気に回復されております。ワクチンを接種された方の一部には発症された方もいらっしゃいますが比較的軽症に経過したようです。今年の秋もインフルエンザワクチンを接種しましょう。

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は12月176名、1月68名、2月118名でした。今年の特徴は吐気が3～4日と長引く人が多く、また一部の方は下痢が1週間以上続きました。小型球形ウイルス及び乳児ではロタウイルスによるものでしょう。抗生剤の投与は必要ありませんでした。点滴が必要で、検査にて炎症反応が見とめられた方にはホスミスチン等の抗生剤を処方しました。

その他の感染症

12月から2月までに麻疹が4名発症しております。内3名は家族内発症で予防接種は受けておりません。もう一人はお母様が麻疹に罹りうつったもので麻疹ワクチンは接種されておりました。水痘は51名と大流行ですが、一部の保育園での集団発症で、入園する前にワクチンを受けることが必要です。ワクチン接種者にも発症しましたが軽症に経過しております。溶連菌は62名と依然として流行中です。その他風疹、おたふくかぜ、伝染性紅斑も発症しています。肺炎・気管支炎ではマイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎がみられています。

一口メモ

EBM : evidence based medicine 根拠に基づく医療と訳される。
医師個人の考えや経験だけではなく、多くの患者さんを対象とした比較対照試験によって導かれた結果による医療。

病診連携

関連病院施設にお願した患者さんは61名で検査4名、外来32名、入院15名でした。

検査紹介ではまた頭痛の検査でCT/MRIを東邦大学、NTT 東日本病院に依頼しております。外来は東邦大学耳鼻科にメニエール病1名、昭和大学耳鼻科に眩暈1名、国立成育センター腫瘍科にも女児1名紹介しましたが異常はありませんでした。その他東邦大学小児科に気管支炎、中耳炎等で10名、都立荏原病院には発熱、熱性痙攣等で4名、東京医科歯科大学小児外科には臍ヘルニア2名、老人病科に1名、その他皮膚炎・中耳炎・麦粒腫等で藤岡皮膚科、荒川皮膚科、池上耳鼻科、田村耳鼻科、小林耳鼻科、下丸子眼科に紹介しました。

入院患者さん紹介は医科歯科大学外科に直腸癌、呼吸器科に発熱で入院されています。また川崎病で日赤医療センターと東邦大学小児科に1名ずつ紹介しております。化膿性リンパ節炎、肺炎、不明熱等で東邦大学小児科、大森日赤病院小児科、荏原病院等に紹介しました。皆さん元気に回復されています。

点滴コーナー

点滴治療された方は12月61名、1月47名、2月31名の合計延べ139名でした。肺炎・気管支炎、あるいは咽頭に膿がついて腫れる咽頭炎・扁桃炎が35名です。他の方は嘔吐・下痢症による脱水に方でほとんどの方が1日の点滴で回復されています。肺炎・咽頭炎では3日程度1日2回の抗生剤の点滴静注が必要でした。喘息で点滴が必要な方はいらっしゃいませんでした。

院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

12月は小児科医の集まりである東京小児科医会の機関誌の編集委員会、2月には関東地区小児科医会の連絡会に出席しました。また1月には東京女子医大で日本小児科学会関東地区代議員会が開かれ、小児救急医療について話し合いが行なわれました。4月25・26・27日福岡で日本小児科学会総会が開催され、出席の予定です。5月31日、6月1日には小児特発性血小板減少性紫斑病治療委員会世話人会に出席してこの病気の標準治療の確立をする予定です。また院長は大田区の介護認定審査会委員に就任しました。

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後200~400にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約して下さい。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	一般(小・内)	一般(小・内)	一般(小・内)
火	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
水	代診(小児科)	一般(小・内)	一般(小・内)
木	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
金	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
土	一般(小・内)	13:00~14:00 乳健・予接、14:00~15:00 一般(小・内) 栄養相談 13:00~15:00 30分ずつ(乳幼児、生活習慣病)	

乳健：乳児健診、予接：予防接種、ア：アレルギー疾患 慢：慢性疾患

電話予約について

当クリニック(OCFC)では患者さんの待ち時間短縮のため予約制を採用しています。できるだけ電話にて予約を取られるようお願いいたします。空き状況をお聞きの際は、かけなおして予約をお取り下さい。予約希望時間が詰まっている時は希望時間に近い時間帯をご案内いたします。

■ サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	2種混合	22#	日本脳炎	28#
内科一般	12#	健康診断	17#	麻疹	23#	その他	29#
アレルギー/慢性疾患	13#	確認	20#	風疹	24#		
隔離感染症	14#	取消	30#	水痘	26#		
予防接種	15#	3種混合	21#	おたふくかぜ	27#		

予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤っていれば1#で行って下さい。

院内設備・機器

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)、オゾン空気清浄・防臭装置(2台)

検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、CRP/ASO 測定機、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器、心電図モニター(点滴施行患者さんモニター用)、チンパノメトリー

患者さん 質問箱



Q

私も子供も花粉症で春は素顔では外を歩けません。市販薬はすぐ効くけどじきに効果が無くなるので今年は専門医にかかりました。でも専門の先生ってお薬出すだけで…。私はもっと生活の工夫がしてみたいんです。

(いっぱいもらった薬を前になんとか納得がいかない花粉症の母)

A

お薬だけ出してちゃんと説明しない専門医は困りますね。それでは私が治療について説明しましょう。花粉症は①スギ花粉等のアレルギーがあること。②花粉が体について体に侵入し抗体ができること。③抗体と侵入した花粉が結合してマスト細胞を刺激してからだの中に化学伝達物質ができること。④化学伝達物質が鼻や目にとりつくこと。の結果鼻水や涙が出てくるわけです。予防薬は③と④のところに作用して効果を出すわけでそれには2週間ほどかかります。薬の使用についてはOCFC ニュースのvol. 5に説明してあります。でも最も重要なのは花粉が体に侵入しないこと、すなわち①と②です。花粉が無ければいいのです。実際スギの植林がそれほど多く無かった頃は花粉症はなく、またスギの少ない関西方面は関東より症状が軽そうです。でも現実的に皆さんが簡単に関西や北海道または海外に移住できるわけではなく、ここでは体につかないためのノウハウをお知らせします。

まず部屋の掃除法: 掃除機をかけますがホースを長くして噴出し孔はベランダ等部屋の外に置きます。最近では噴出し孔のない掃除機も市販されています。濡れた雑巾がけは効果的です。お布団を干したら必ず表面を掃除機で花粉を除去しましょう。布団乾燥機は効果的です。窓は極力あけない事。換気をしたら空気清浄機も使いましょう。

外出時: メガネ・マスクは必需品。メガネは防御カバー付がよいですが、とにかくどんなメガネでもかけましょう。コンタクトレンズは刺激になります。またコンタクト装着中は原則として点眼薬は使えません。マスクは高価なものより安価なものを毎日とりかえるほうが衛生的です。帽子もできたらかぶりましょう。

帰宅時: 外套、帽子、メガネ、マスクは居間や寝室に入る前にはずすこと。うがいをして顔を洗い、目を流水で洗います。鼻孔も洗いますがなかなか面倒。OCFC では洗浄液をお分けしています。重曹・生食水で特別な薬剤は入っていません。鼻孔にスプレーすると、鼻水がどんどん出てきます。そこで鼻をかむと花粉が洗い流されるわけです。帰宅時、就寝前にお試し下さい。外気に曝した衣服は着替えます。入浴は寝る前にとつかないで、お早めに。髪の毛はまめに洗いましょう。

花粉情報: 新聞やニュース、インターネットで花粉情報をしらべて大量飛散日は外出を控える。

これだけやればかなり症状は軽くなるでしょう。来年からは早めの予防薬1剤だけでシーズンを乗りきるといいですね。予防薬開始は花粉観測日と花粉飛散開始日との間、1月中旬が目安です。(OCFC 院長)

偏照院駐車場の改良なる。
~どうぞご利用下さい~

OCFC より50m 蒲田よりに偏照院駐車場があります。いままでばらばらであった駐車スペースを一ヶ所に集め、4台分のスペースで3台の駐車場としました。これまでは狭くていれ難く、乗降にも不便でしたが、拡張することで改善できました。どうぞご利用下さい。駐車はOCFC のマークがあるスペースをお願いします。(下記案内図参照!)

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー (OCFC) 会

OCFC
Okawa Children & Family Clinic
大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間: 月~金 午前 8:30~12:00 午後 2:00~6:00

土 午前 8:30~12:00 午後 1:00~3:00

(日曜・祝日休診) 駐車場五台あり

予約
専用

03-3758-0099

代表
番号

03-3758-0920

E-mail: ocfc@jeans.ocn.ne.jp

案内図



東急多摩川線 矢口渡駅前